

Accuphase

# 6-CH DIGITAL POWER AMPLIFIER

6チャンネル・デジタル・パワーアンプ

## PX-650 取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

### 3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属の「お客様カード」に必要事項を記入の上、お早めに(なるべく10日以内に)ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

※「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは21ページをご参照ください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証は日本国内のみ適用されます。

**Accuphase warranty is valid only in Japan.**

### マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

### 警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

### 注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

## 付属品を確認します

- 取扱説明書 ..... 1冊
- 安全上のご注意 ..... 1冊
- お客様情報の取扱いについて ..... 1枚
- お客様カード ..... 1枚
- 目隠しシール ..... 1枚
- AC電源コード(2m) ..... 1本

## 目 次

付属品を確認します .....	表紙裏頁
<b>1. ⚠ 警告 安全上必ずお守りください</b> .....	<b>2</b>
⚠ 注意 .....	3
使用上の注意 .....	3
<b>2. 各部の名前</b> .....	
フロントパネル, リアパネル .....	4
<b>3. 接続図</b> .....	
6チャンネル(5.1ch)演奏の接続例 .....	5
<b>4. 各部の動作説明</b> .....	<b>6, 7</b>
<b>5. ブリッジ接続</b> .....	
ブリッジ接続とは .....	8
ブリッジ接続に切り替えた時 .....	8
ブリッジ接続するには .....	9
<b>6. PX-650活用方法</b> .....	
4チャンネル(ダウンミックス)演奏の接続例 .....	10
PX-650を2台使用した、5.1ch演奏の接続例 .....	11
2チャンネル(ステレオ)演奏の接続例	
ノーマル接続 .....	12
ブリッジ接続 .....	13
マルチチャンネル・システムでの使用例	
3Wayマルチアンプ方式 .....	14
2Way+サブウーファー方式 .....	15
サブウーファー方式 .....	16
<b>7. 保証特性</b> .....	<b>17</b>
<b>8. 特性グラフ</b> .....	<b>18</b>
<b>9. ブロック・ダイアグラム</b> .....	<b>19</b>
<b>10. 故障かな?と思われるときは</b> .....	<b>20</b>
<b>11. アフターサービスについて</b> .....	<b>21</b>

# 1. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V (50Hz/60Hz) 以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属の電源コード以外は絶対に使用しないでください。
- 付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)を置かない。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。通風が悪いと機器の温度が上り、火災や故障の原因となります。

■トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■次の場合には、まず本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。

- 内部に水や薬品がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

※電源コードをコンセントから抜かないと、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

※必ず当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

## ⚠ 注意

### ■ 次の場所に設置しない。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たるところ
- 暖房器具の近く
- 振動や傾斜のある不安定な場所

また、本機を2台重ねたり、他の機器と直接重ねての使用は避けてください。

### ■ スピーカーコード、入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

- RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(-)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。
- スピーカーコードの接続が不完全で、コードが外れて本体シャーシや入・出力端子に触れると、アンプの故障やショック・ノイズの原因となることがあります。

### ■ 電源スイッチはプリアンプなど入力側のボリュームを下げてから切る。

### ■ 電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

### ■ AC電源コードの接続。

本機は消費電力が大きいため、十分に余裕がある室内のコンセントから直接電源を取るようにしてください。

### ■ 長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

### ■ 入・出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

## 使用上の注意

### ■ 本機は、内部でデジタル処理をしているため、高周波ノイズが、周囲の電気製品へ妨害を与える場合があります。このため、チューナーやテレビ、ビデオデッキなどの製品からできるだけ離して設置してください。

- 近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合は注意。)
- アンテナ線と本機の電源コードや入・出力コード、スピーカー・ケーブルを離して設置してください。

### ■ 本機は一部のプロテクション回路が作動した場合、出力を遮断するとともに、表示部の ロゴが点滅して警告します。

- ロゴの点滅は、スピーカー接続時のコードによる端子ショートなどのケースが考えられます。原因が明確な場合には、電源スイッチ切り、不具合を取り除いてください。電源OFF後、2分以上経過してから電源を再投入すれば正常状態に復帰します。

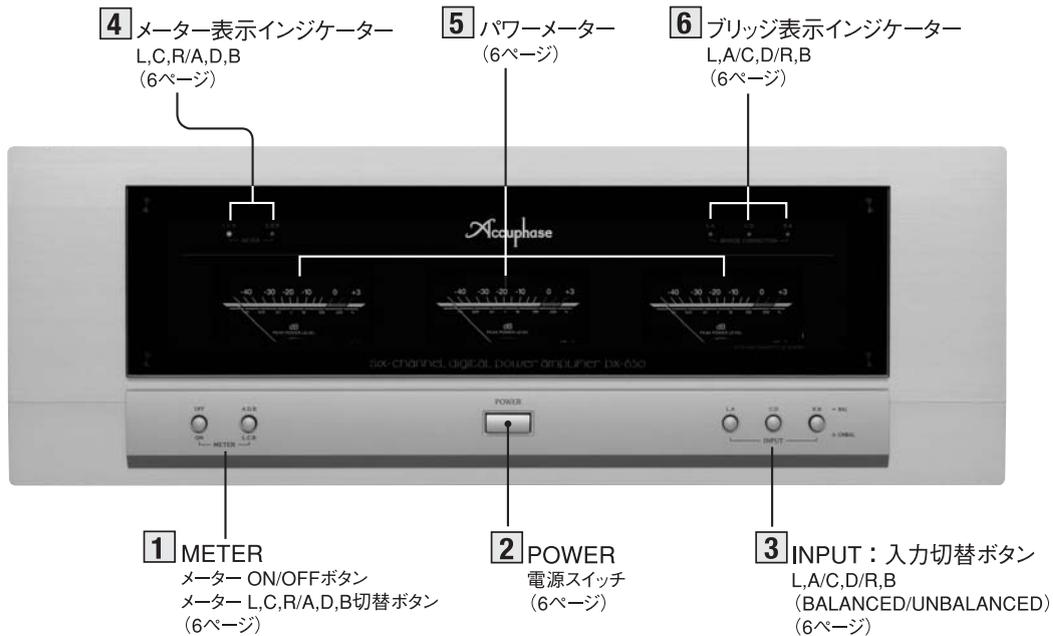
## お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

## 2. 各部の名前

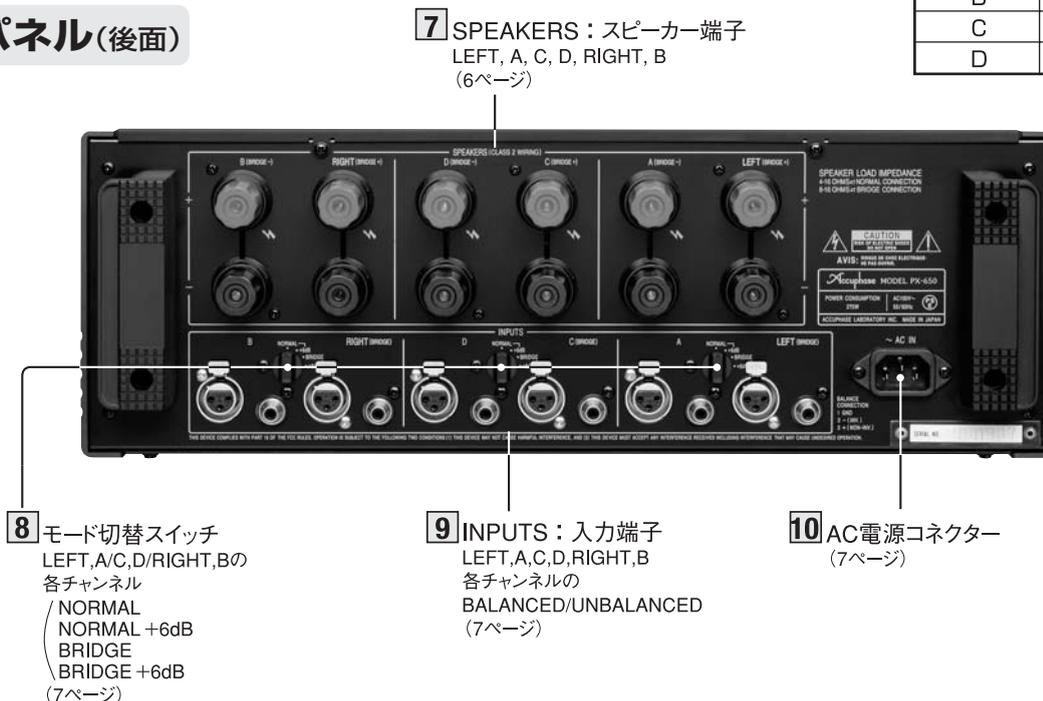
詳しい説明は、各項目の( )内のページを参照してください。

### フロントパネル(前面)



端子名	5.1ch時の接続例
L (LEFT)	フロント左
R (RIGHT)	フロント右
A	リア左
B	リア右
C	センター
D	サブウーファー

### リアパネル(後面)



# 3. 接続図

**注意** : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

## 6チャンネル(5.1ch)演奏の接続例

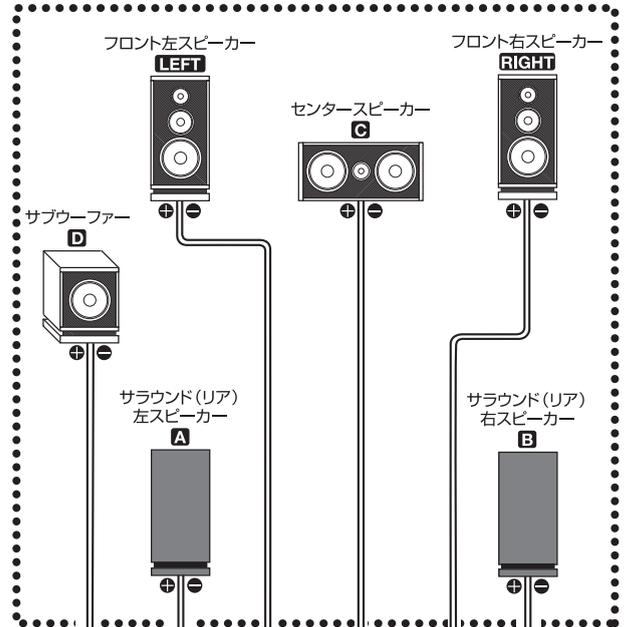
- 接続する機器によって、端子表示名が異なりますので、各取扱説明書を参照してください。
- CX-260, VX-700とPX-650の接続は、同じ名称の端子と端子を正しく接続してください。

### 入力機器やスピーカーとCX-260/VX-700/PX-650の端子名

入力機器、スピーカー	CX-260, PX-650, VX-700の端子
フロント左チャンネル	LまたはLEFT
フロント右チャンネル	RまたはRIGHT
サラウンド(リア)左チャンネル	A
サラウンド(リア)右チャンネル	B
フロント・センターチャンネル	C
サブウーファー	D

※ 接続図のサブウーファーは、アンプを内蔵していない(パッシブ型)スピーカーの例です。

※ パワーアンプ内蔵(アクティブ型)サブウーファーを使用する場合は、CX-260やVX-700の“D”出力端子とサブウーファーの入力端子をプラグ付オーディオケーブルで直接接続してください。



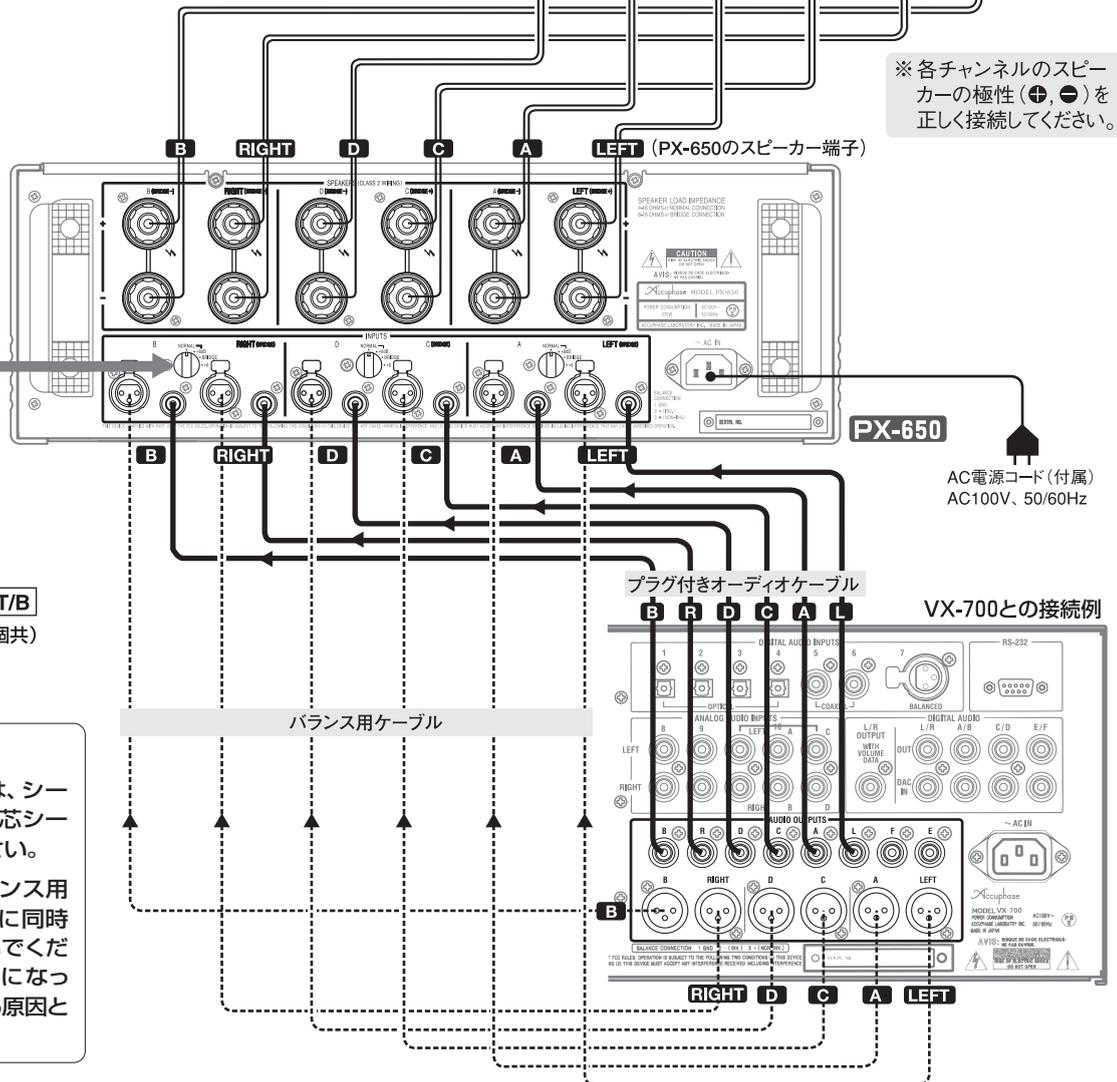
※ 各チャンネルのスピーカーの極性(+)、(-)を正しく接続してください。

**フロントパネル**  
 入力したチャンネルの接続端子(BALまたはUNBAL)を選択します。

LEFT/A, C/D, RIGHT/B  
 モード切替スイッチ(3個共)  
 NORMALポジション

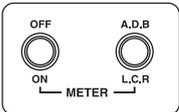
### 注意

- オーディオケーブルは、シールド線(バランス用は2芯シールド)を使用してください。
- バランス用とアンバランス用ケーブルは、同一機器に同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。



## 4. 各部の動作説明

### 1 METER — メーター動作ON/OFFボタン メーター切替ボタン



#### メーターON/OFFボタン

押ししてOFF(⬇️) : メーターの作動停止、照明ランプ消灯  
再び押ししてON(⬆️) : メーター作動、照明ランプ点灯

#### メーター切替ボタン

メーターのA,D,BとL,C,Rを切り替えます。

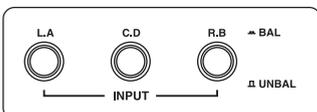
押ししてA,D,B(⬇️) : A,D,Bチャンネルのメーター表示  
再び押ししてL,C,R(⬆️) : L,C,Rチャンネルのメーター表示

LED	正面左のメーター	中央のメーター	正面右のメーター
A, D, B点灯時	A	D	B
L, C, R点灯時	LEFT	C	RIGHT

### 2 POWER — 電源スイッチ

押しして電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで、約5秒間はミュート回路が作動していますので出力はありません。

### 3 INPUT — 入力切替ボタン



「LEFTとA」「CとD」「RIGHTとB」の3系統それぞれのチャンネルにおいて、入力信号を接続した端子を切り替えます。

押ししてBAL(⬇️) : バランス入力端子  
再び押ししてUNBAL(⬆️) : アンバランス入力端子

### 4 メーター表示インジケータ — L,C,R/A,D,B

1のメーター切替ボタンで選んだチャンネルを、LEDの点灯で表示します。

### 5 PEAK POWER — ピーク・パワーメーター

メータースケールは出力レベルをdB(デシベル)で表示します。

8Ω出力を基準に、4Ωで2倍、16Ωの場合は1/2の値が出力になり、正弦波の場合には下記のような出力値になります。

#### メーター表示

出力表示 (dB/%)	4Ω 負荷	6Ω 負荷	8Ω 負荷	16Ω 負荷
0dB: 100%	300W	225W	150W	75W
-10dB: 10%	30W	22.5W	15W	7.5W
-20dB: 1%	3.0W	2.25W	1.5W	750mW
-30dB: 0.1%	300mW	225mW	150mW	75mW
-40dB: 0.01%	30mW	22.5mW	15mW	7.5mW

このパワーメーターはピークレベル表示型になっていますので、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化している音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示するように回路が構成されています。

したがって、瞬時のピーク値を読み取りやすくするためにメーター指針の立ち上がり時間に比べて、帰りの時間が遅くなっています。また、プログラム・ソースにノイズがあったり、パルス性の信号が多く含まれている場合には、聴感上の音量感と多少違った感じになります。

※ブリッジ接続の場合のメーター表示は8ページ参照

### 6 ブリッジ表示インジケータ — L,A/C,D/R,B

「LEFT/A」「C/D」「RIGHT/B」チャンネルの各3系統のブリッジ接続が可能です。

リアパネルの8モード切替スイッチでBRIDGE(ブリッジ)を選択すると点灯します。

### 7 SPEAKERS — スピーカー端子

LEFT, RIGHT, A, B, C, D各端子に合計6系統のスピーカー・システムを接続することができます。

各端子は、ケーブルの端末処理がスムーズにできる「Yラグ」や「バナナ・プラグ」の挿入が可能です。

5.1ch演奏の場合は、5ページの接続図を参照して次のように接続します。

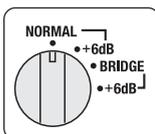
スピーカー	PX-650の端子
フロント左チャンネル	LEFT
フロント右チャンネル	RIGHT
サラウンド(リア)左チャンネル	A
サラウンド(リア)右チャンネル	B
フロント・センターチャンネル	C
サブウーファー	D

\* インピーダンス4~16Ωのスピーカーを使用してください。

※ブリッジ接続の場合は、8ページ参照

## 8 モード切替スイッチ

PX-650の各チャンネル動作を、NORMALまたはBRIDGE接続に切り替えるスイッチです。「LEFTとA」「CとD」「RIGHTとB」各ペアのチャンネルで、それぞれ切り替えが可能です。



「+6dB」ポジションは、サラウンド演奏等で音量不足を感じる場合、「LEFTとA」「CとD」「RIGHTとB」それぞれのチャンネルのゲインを6dB上げることができます。

- **NORMAL** : ゲイン28dB  
通常、1チャンネル毎使用する場合のポジションです。
- **NORMAL +6dB** : ゲイン34dB
- **BRIDGE** : ゲイン28dB  
ブリッジ接続にする場合のポジションです。
- **BRIDGE +6dB** : ゲイン34dB

## 9 INPUTS — 入力端子

プリアンプなど入力機器を接続します。**3** 入力切替ボタンで入力端子(BALANCEDまたはUNBALANCED)を選択してください。

### UNBALANCED

通常のアンバランス入力端子です。

### BALANCED

バランス入力端子です。

ピンの極性は次のようになっていきますので、入力機器との極性を合わせて正しく接続してください。

- ①: グラウンド
- ②: インバート(-)
- ③: ノン・インバート(+)

\* VX-700/CX-260とPX-650の接続は、同じ名称の端子と端子を正しく接続してください。

\* XLRコネクタ付きバランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

※ブリッジ接続の場合は、8ページ参照

## 10 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。

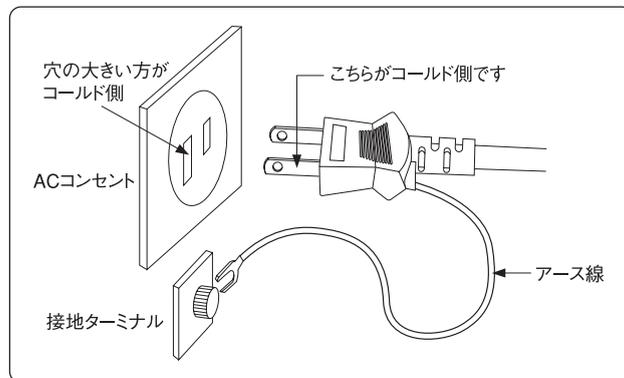
### 警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

#### ■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



#### ■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

#### 注意

※室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。

※大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

## 5.ブリッジ接続



### 注意

：ブリッジ接続にするときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

PX-650は「LEFTとA」「CとD」「RIGHTとB」チャンネルがペアで、それぞれ任意にブリッジ接続することができ、最大3チャンネルの大出力アンプが可能です。

### ブリッジ接続とは

2チャンネルアンプの各入力に、互いに逆位相の信号を入力して、プッシュプル駆動することにより、更に**大出力(4倍)のモノフォニック・アンプ**にすることができます。本機は、リアパネルのモード切替スイッチをBRIDGE側にしますと内部でブリッジ接続に切り替わります。

### ブリッジ接続に切り替えた時

■**負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になります。**

インピーダンス6Ω以上のスピーカーを使用してください。

ブリッジ接続にすると、1つのチャンネルに対するアンプ側から見た負荷インピーダンスは、実際の負荷の半分になります。例えば、8Ωのスピーカーを接続したときは、チャンネルあたり4Ωのスピーカーが接続されたときと同じになります。

■**増幅度について**

ブリッジ接続にすると、スピーカーに加わる電圧(増幅度)が2倍になります。本機は、使いやすさを考慮して、ブリッジ接続にしても増幅度が変わらない設計になっています。音量不足を感じる場合、「MODE切替スイッチ」を「BRIDGE +6dB」ポジションにすると、「LEFTとA」「CとD」「RIGHTとB」それぞれのチャンネルの増幅度を上げることができます。

■**パワーメーターの表示**

ブリッジにした両チャンネルのメーターが同一の指示をします。ただしこれは、正弦波のように対称波形入力の場合で、音楽や音声信号のようにパルス性の波形や非対称波形が入力された場合には、メーターの指針は同一の値を示しません。

- スピーカーへの出力(メーターの指示値)は、ノーマル時(6ページ)の4倍になります。

注意：パワー値の保証は6Ω負荷以上とする

出力表示 (dB/%)	4Ω負荷 (参考値)	6Ω負荷	8Ω負荷	16Ω負荷
0dB : 100%	1200W	900W	600W	300W
-10dB : 10%	120W	90W	60W	30W
-20dB : 1%	12W	9W	6W	3W
-30dB : 0.1%	1.2W	900mW	600mW	300mW
-40dB : 0.01%	120mW	90mW	60mW	30mW

## ブリッジ接続するには

- 1 PX-650の電源スイッチを切ります。
- 2 ブリッジにするチャンネルの**8**「モード切替スイッチ」をBRIDGE側に切り替えます。
- 3 入力信号は、下記の表に示すように、各INPUTS端子へ入力します。  
各スピーカーとPX-650のSPEAKERS端子とは下記の表に従って接続します。

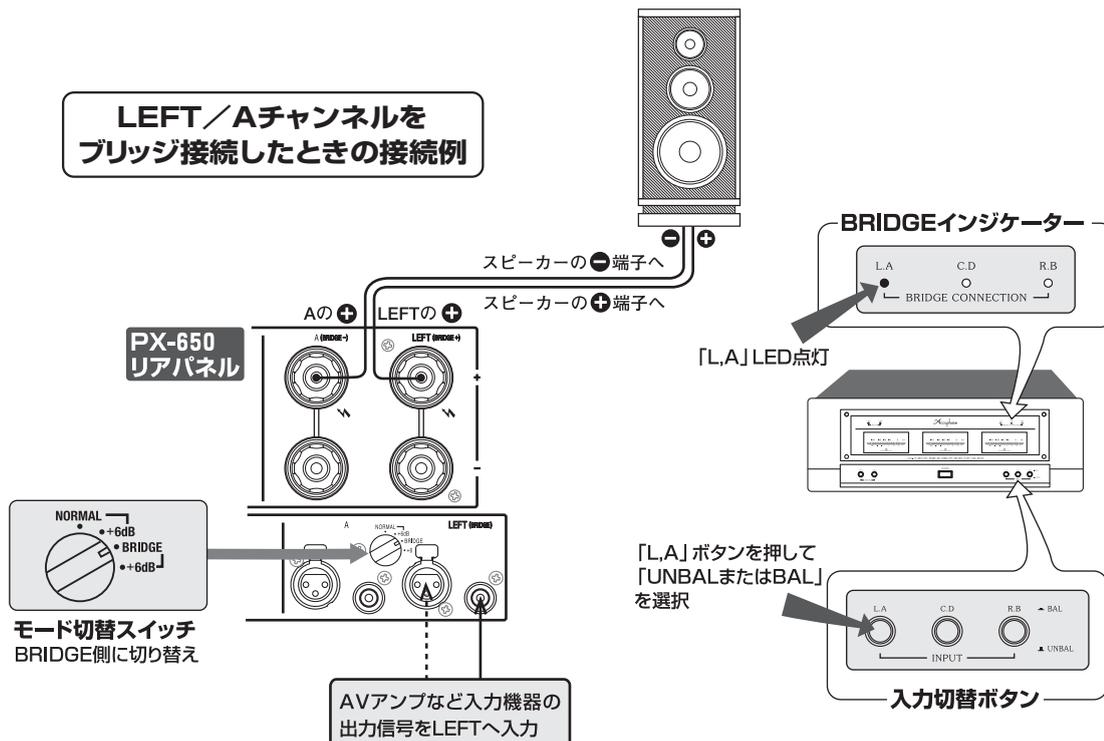
入 力	ブリッジが可能なチャンネル		
	LEFTとA	CとD	RIGHTとB
スピーカーの⊕端子	LEFTの⊕端子	Cの⊕端子	RIGHTの⊕端子
スピーカーの⊖端子	Aの⊕端子	Dの⊕端子	Bの⊕端子

※注意：PX-650のSPEAKERS端子の⊖（マイナス）側には何もつながないでください。

- 4 PX-650の電源を入れ、パネル面の**3**入力切替ボタンで入力した端子（UNBALANCEDまたはBALANCED）を選択します。

※**6** BRIDGEインジケータの点灯を確認します。

## LEFT/Aチャンネルをブリッジ接続したときの接続例



## 6. PX-650の活用方法

⚠ 接続の場合は各機器の電源を切る。

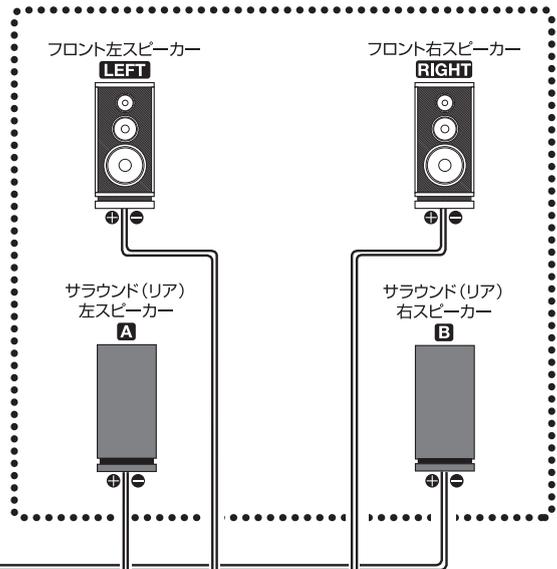
※6チャンネル(5.1ch)演奏の接続例は5ページ参照。

- 接続の注意**
- オーディオケーブルは、シールド線(バランス用は2芯シールド)を使用してください。
  - バランス用とアンバランス用ケーブルは、同一機器に同時に接続して使用しないでください。アースグループになって、ノイズを発生させる原因となります。
  - ブリッジ接続をしない場合は、インピーダンス4Ω以上のスピーカーを使用してください。
  - ブリッジ接続の場合は、6Ω以上のスピーカーを使用してください。
  - 入・出力端子の各チャンネル、スピーカー端子やスピーカーの極性(⊕、⊖)を正しく接続してください。

### 4チャンネル(ダウンミックス)演奏の接続例

5.1chソースを4チャンネルにダウンミックスし、センター・スピーカーやサブウーファーを設置しないでサラウンド演奏を楽しむことができます。

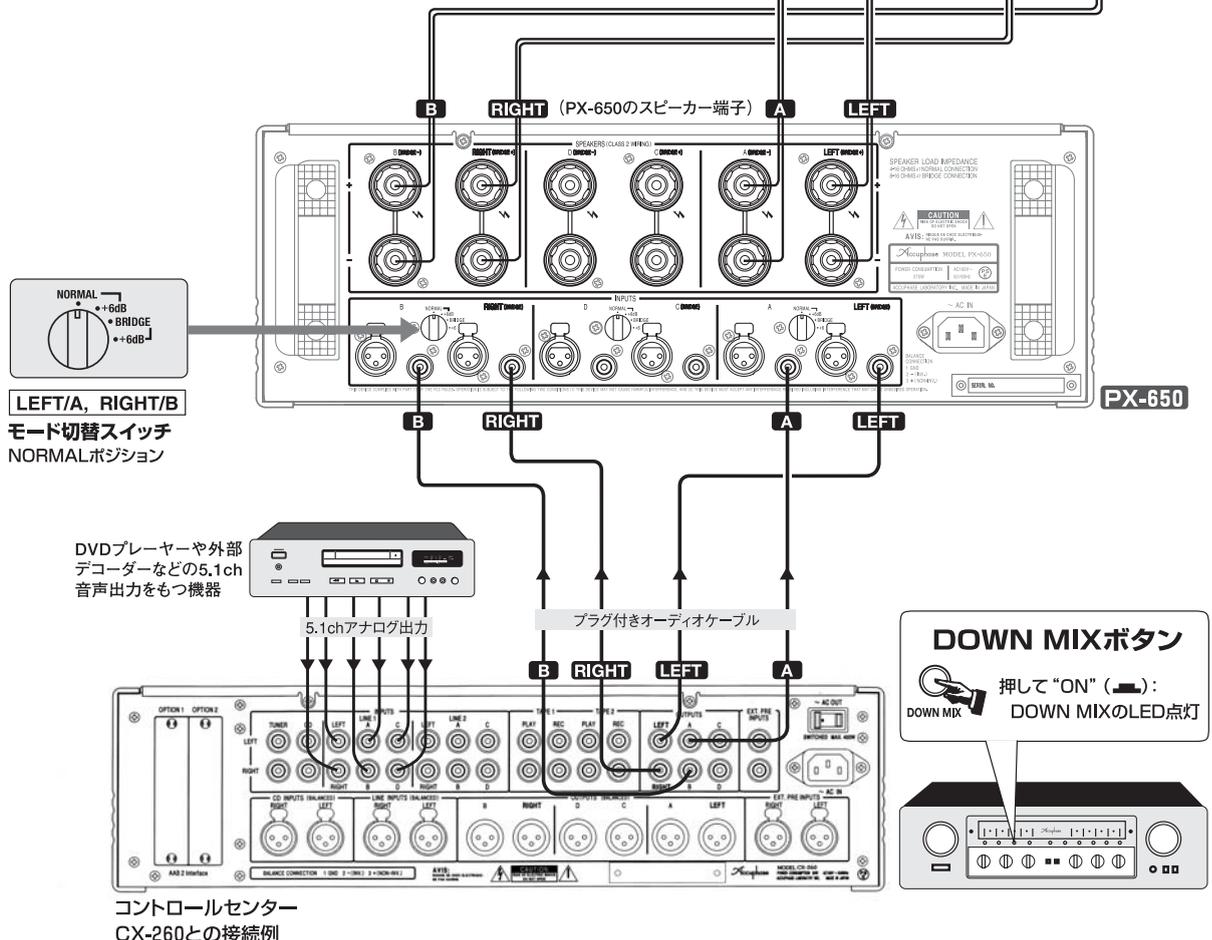
- PX-650の6系統のパワーアンプから、4系統を使用します。
- 6系統アンプ全てを使用して、フロント左右スピーカーをブリッジ接続することもできます。
- AVアンプやVX-700と接続する場合は、スピーカー設定で、センターやサブウーファーなしを設定します。
- VX-700、CX-260との詳しいダウンミックスの接続方法はそれぞれの取扱説明書を参照してください。



### CX-260との接続例

CX-260と接続する場合は、ダウンミックス機能を利用します。CX-260に入力した5.1ch信号の内、センターとサブウーファー信号をフロント側LEFTとRIGHTチャンネルに振り分け、4チャンネル演奏が可能です。

- CX-260とPX-650の接続は、バランス接続も可能です。

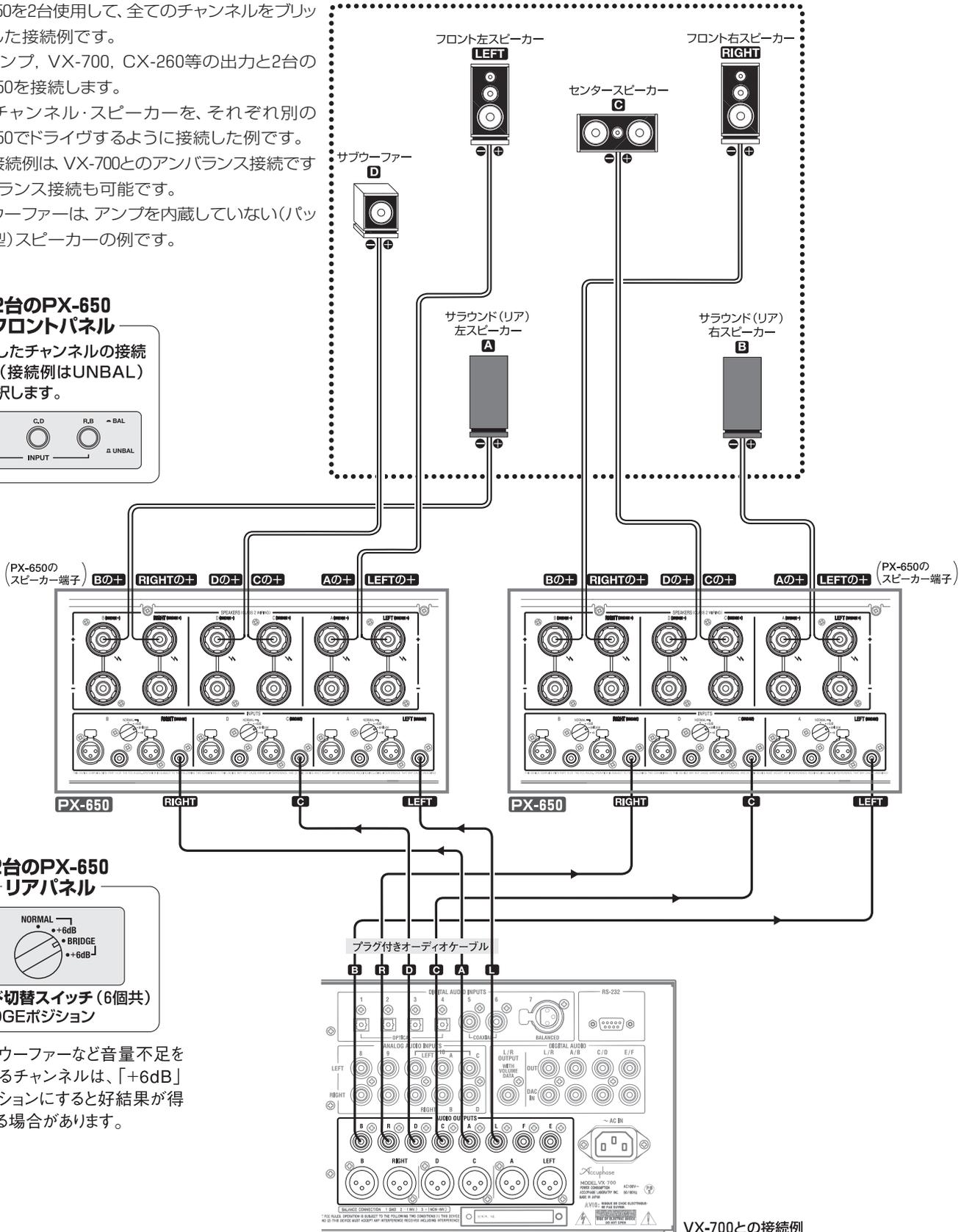
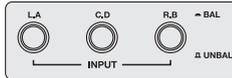


**PX-650を2台使用した、5.1ch演奏の接続例**

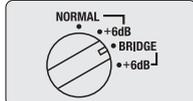
- PX-650を2台使用して、全てのチャンネルをブリッジにした接続例です。
- AVアンプ、VX-700、CX-260等の出力と2台のPX-650を接続します。
- 左右チャンネル・スピーカーを、それぞれ別のPX-650でドライブするように接続した例です。
- 入力接続例は、VX-700とのアンバランス接続ですが、バランス接続も可能です。
- サブウーファーは、アンプを内蔵していない(パッシブ型)スピーカーの例です。

**2台のPX-650  
フロントパネル**

入力したチャンネルの接続端子(接続例はUNBAL)を選択します。



**2台のPX-650  
リアパネル**



モード切替スイッチ(6個共) BRIDGEポジション

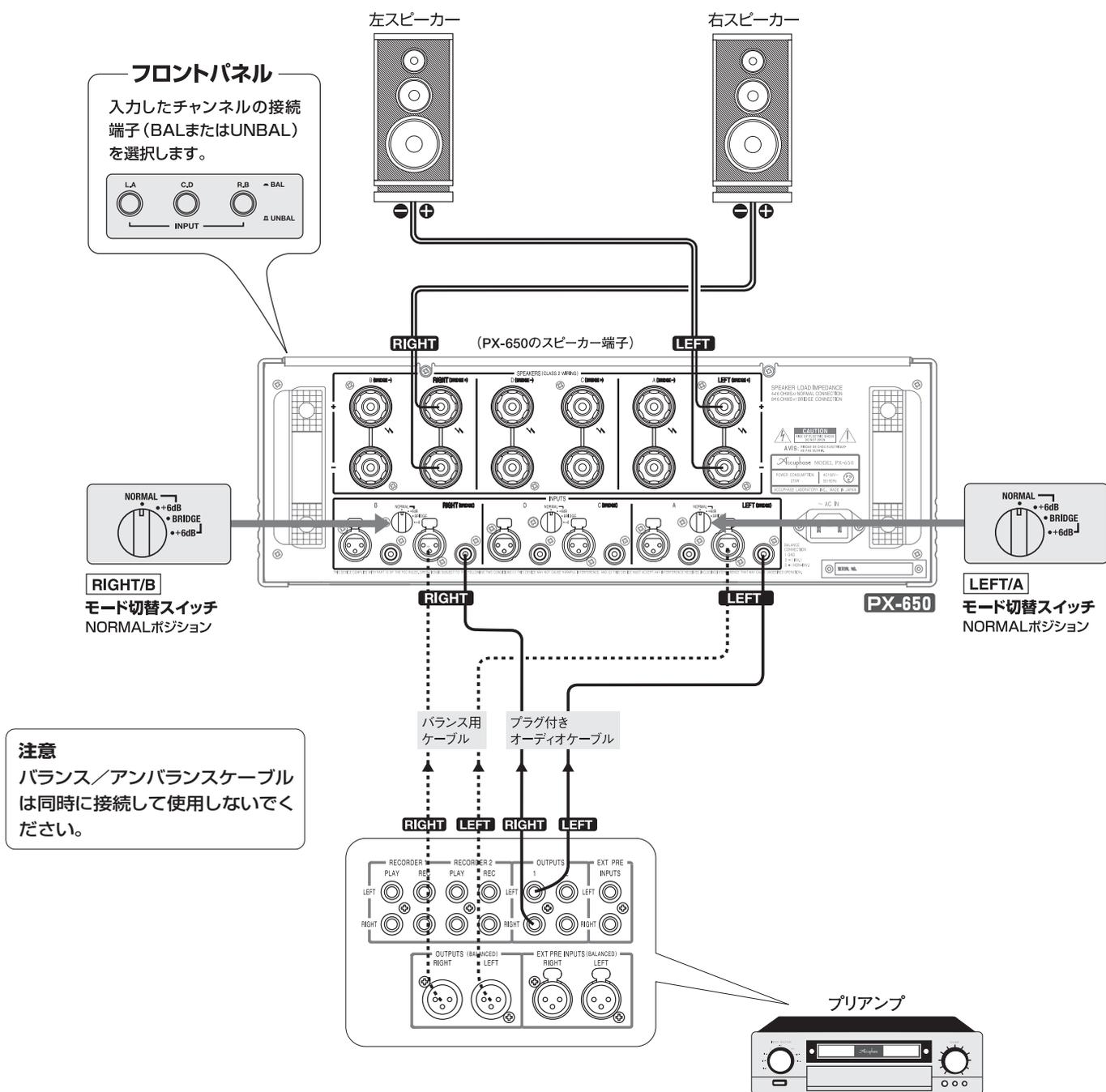
※サブウーファーなど音量不足を感じるチャンネルは、「+6dB」ポジションにすると好結果が得られる場合があります。

VX-700との接続例

## 2チャンネル(ステレオ)演奏の接続例

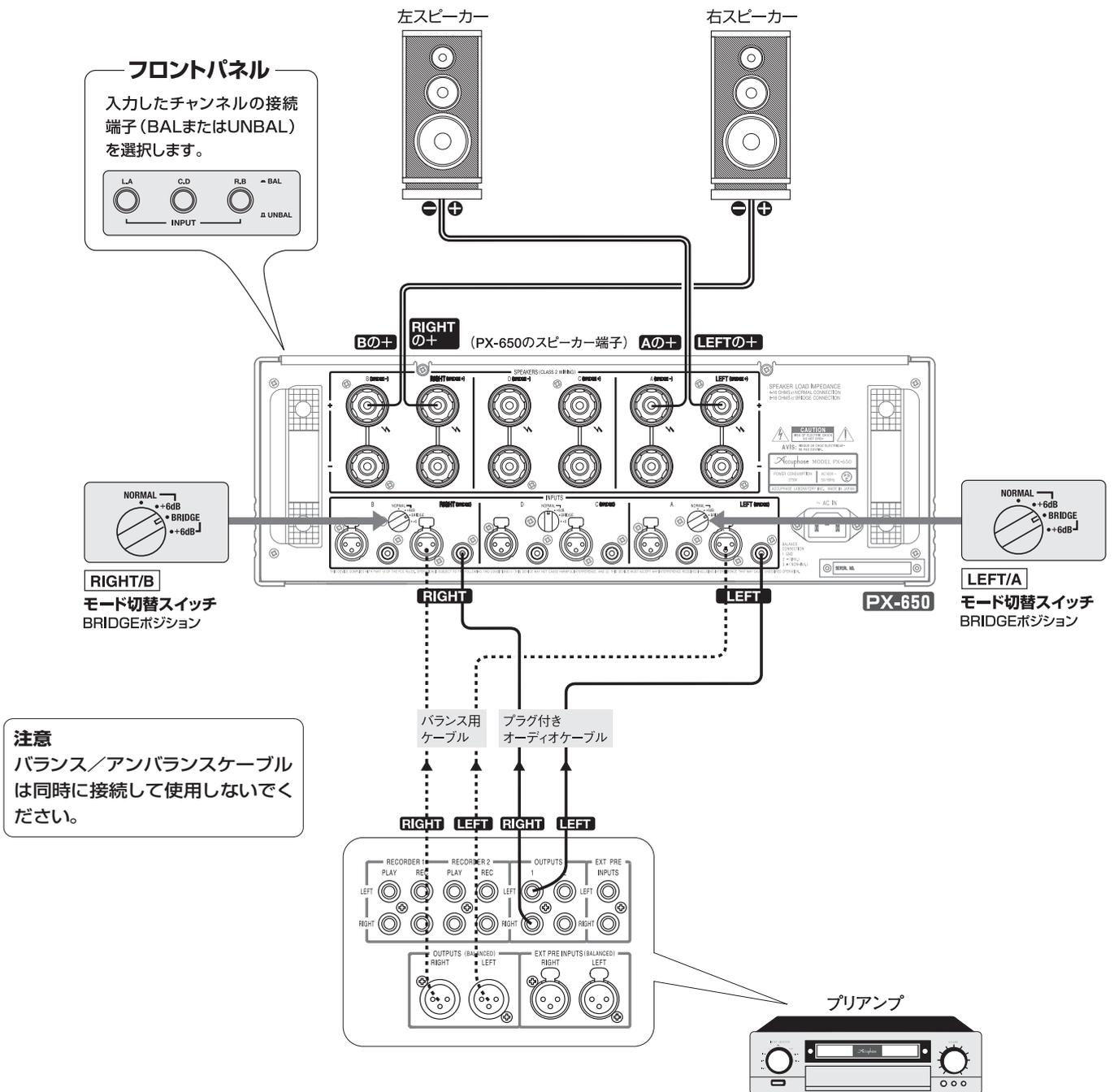
### ■ノーマル接続

- 6チャンネルの中から任意の2チャンネルを選択してスピーカーと接続します。  
(イラストはLEFT/RIGHTチャンネルでの接続例)
- 他の4チャンネルは使用しないため、6チャンネル全て動作するときに比べて、大きな出力を取り出すことができます。



## ■ブリッジ接続

- 「LEFT/A」「C/D」「RIGHT/B」チャンネルのそれぞれをブリッジ接続できます。  
イラストは「LEFTとA」「RIGHTとB」をブリッジにした接続例です。



## マルチチャンネル・システムでの使用例

マルチチャンネル・ディバイダーDF-45などと組み合わせて接続します。  
 詳しい動作説明や接続は、DF-45の取扱説明書を参照してください。

### 3Wayマルチアンプ方式

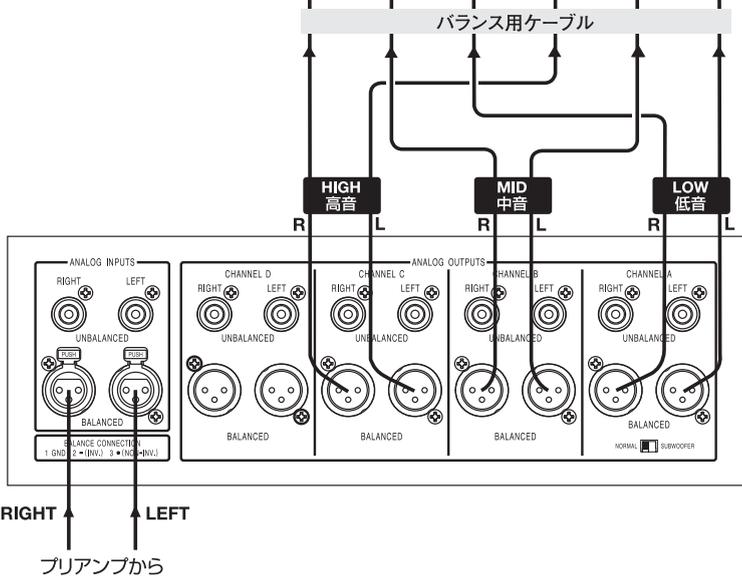
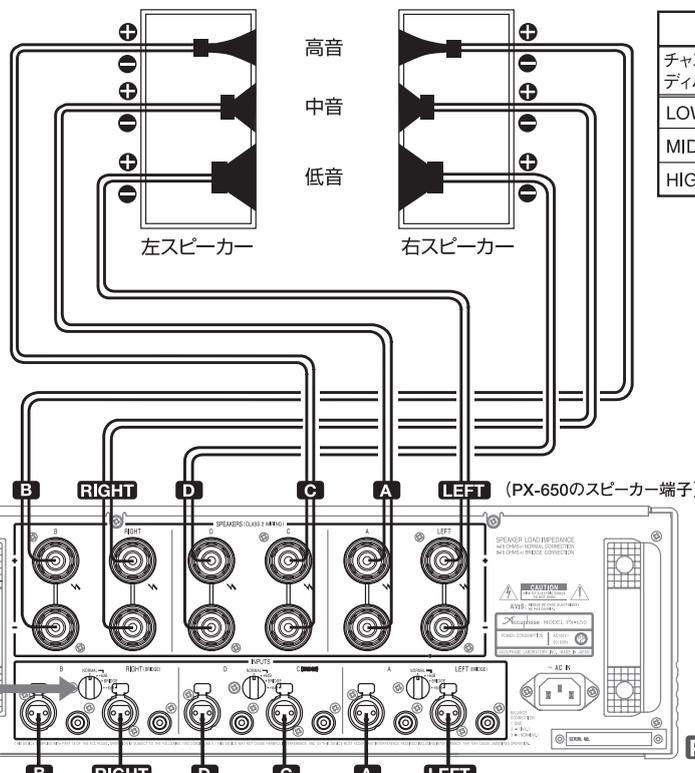
- 6チャンネルのアンプを全て使用します。  
 任意のチャンネルと任意のスピーカー・ユニットを接続できますが、チャンネル・ディバイダーのLOW/MID/HIGH出力やLEFT/RIGHTの接続は正しく接続してください。
- 2Wayマルチアンプ方式で使用する場合は、任意の4チャンネルのアンプを使用します。
- ネットワークを内蔵していないスピーカー・システムが必要です。PX-650各チャンネルの出力を各音域のスピーカー・ユニットへ直接接続します。

チャンネル・ディバイダー出力	PX-650の入・出力端子	スピーカー・ユニット
LOWのLEFT	LEFT	LOW(低音)
MIDのLEFT	A	MID(中音)
HIGHのLEFT	C	HIGH(高音)

チャンネル・ディバイダー出力	PX-650の入・出力端子	スピーカー・ユニット
LOWのRIGHT	D	LOW(低音)
MIDのRIGHT	RIGHT	MID(中音)
HIGHのRIGHT	B	HIGH(高音)

**フロントパネル**  
 入力したチャンネルの接続端子(イラスト例はBAL)を選択します。

**モード切替スイッチ (3個) NORMALポジション**

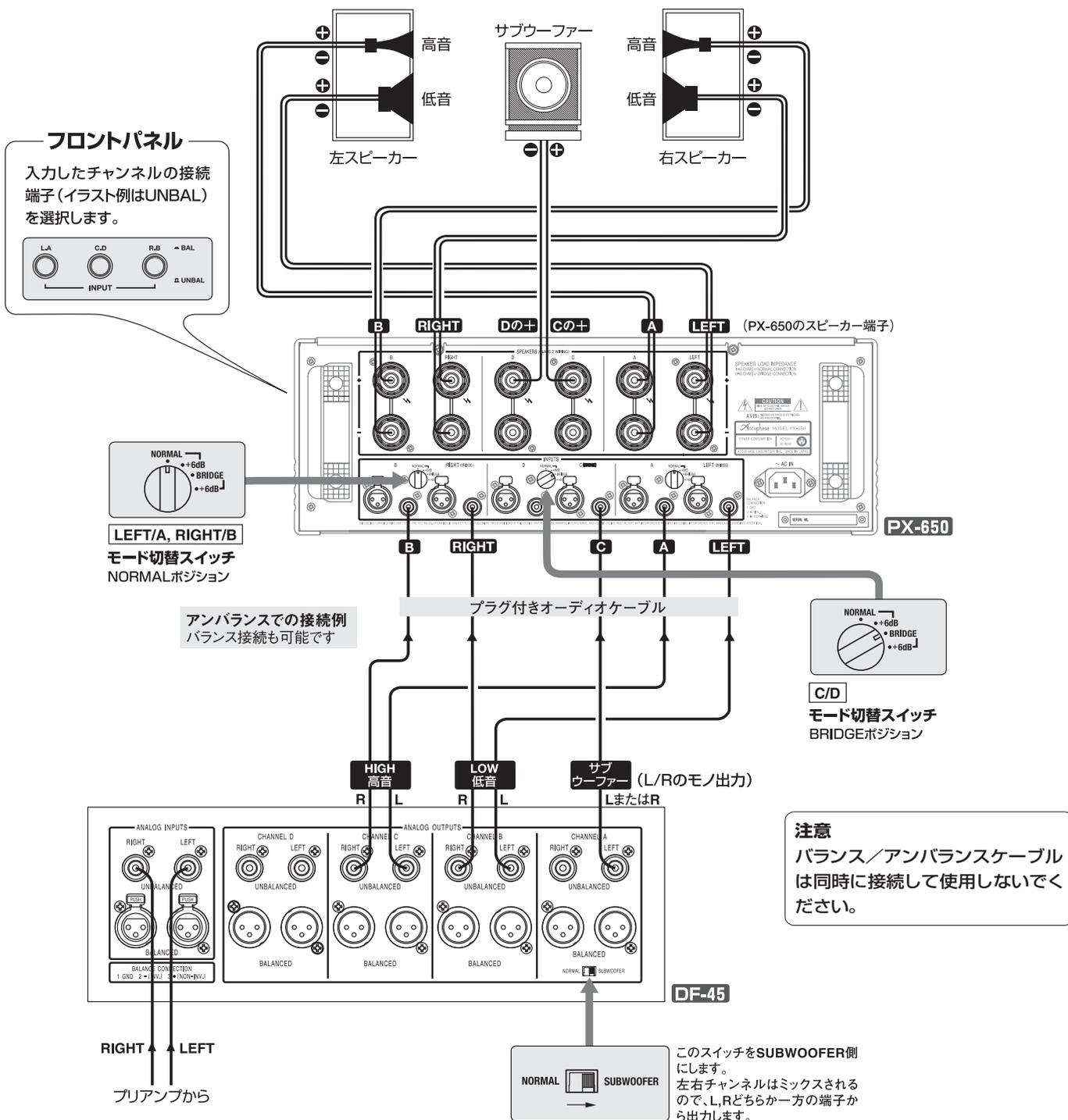


バランスでの接続例  
 アンバランス接続も可能です

**注意**  
 バランス/アンバランスケーブルは同時に接続して使用しないでください。

## ■2Way+サブウーファー方式

- 2Wayマルチアンプ方式にサブウーファーを追加した接続例です。
- サブウーファー信号を、C/Dチャンネルでブリッジ接続にして、6チャンネル全てを使用した例です。
- 左右のスピーカーは、ネット・ワークを内蔵していないスピーカー・システムが必要です。
- サブウーファーは、パワーアンプを内蔵していない(パッシブ型)スピーカーを使用してください。





## 7. 保証特性

【保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる】

### 定格連続平均出力(20~20,000Hz間)

●表の3ch, 2ch, 2ch(Bridge)の出力は、任意のチャンネルの出力値を示す。

		B	RIGHT	D	C	A	LEFT
6ch	4Ω	200 W					
	6Ω	170 W					
	8Ω	150 W					
3ch	4Ω	—	240 W	—	240 W	—	240 W
	6Ω	—	200 W	—	200 W	—	200 W
	8Ω	—	160 W	—	160 W	—	160 W
2ch	4Ω	—	250 W	—	—	—	250 W
	6Ω	—	210 W	—	—	—	210 W
	8Ω	—	170 W	—	—	—	170 W
3ch (Bridge)	6Ω <sup>(※)</sup>	450 W		450 W		450 W	
	8Ω	420 W		420 W		420 W	
2ch (Bridge)	6Ω <sup>(※)</sup>	530 W		—		530 W	
	8Ω	450 W		—		450 W	

注意：※印の負荷は音楽信号に限る。

### 全高調波ひずみ率

6チャンネル仕様時

0.1%

4~8Ω負荷

3チャンネル仕様時(ブリッジ接続)

0.1%

6~16Ω負荷

### IMひずみ率

0.003%

### 周波数特性(4Ω時, 全てのチャンネルにおいて)

定格連続平均出力時： 20~20,000Hz +0 -0.2dB

1W出力時： 2~80,000Hz +0 -3.0dB

### ゲイン(利得)(全てのチャンネルにおいて)

28.0dB(Normal/Bridge)

34.0dB(Normal +6dB/Bridge +6dB)

### 負荷インピーダンス

6チャンネル仕様時 4~16Ω

3チャンネル仕様時(ブリッジ接続) 6~16Ω

注意：ブリッジ接続の6Ωは、音楽信号に限る。

### ダンピング・ファクター

ノーマル仕様時 150 (50Hz)

ブリッジ接続時 75 (50Hz)

### 入力感度(8Ω負荷)

6チャンネル仕様時 1.38V 定格連続平均出力時  
0.11V 1W出力時

3チャンネル仕様時(ブリッジ接続時)

2.31V 定格連続平均出力時  
0.11V 1W出力時

2チャンネル仕様時 1.47V 定格連続平均出力時  
0.11V 1W出力時

2チャンネル仕様時(ブリッジ接続時)

2.39V 定格連続平均出力時  
0.11V 1W出力時

### 入力インピーダンス

40kΩ バランス

20kΩ アンバランス

### S/N(A補正, 入力ショート)

100dB 定格連続平均出力時

### 出力メーター

-40dB~+3dB (dB/%表示)

対数圧縮型、表示消灯機能

### 電源

AC100V 50/60Hz

### 消費電力

48W 無入力時

275W 電気用品安全法(※2)

1125W 8Ω負荷定格出力時

注意：(※2)

電気用品安全法の消費電力は、その機種最大の最大負荷(PX-650は4Ω)で「クリッピング直前出力の1/8」を供給したときの電力値です。

### 最大外形寸法

幅465mm × 高さ180mm × 奥行418mm

### 質量

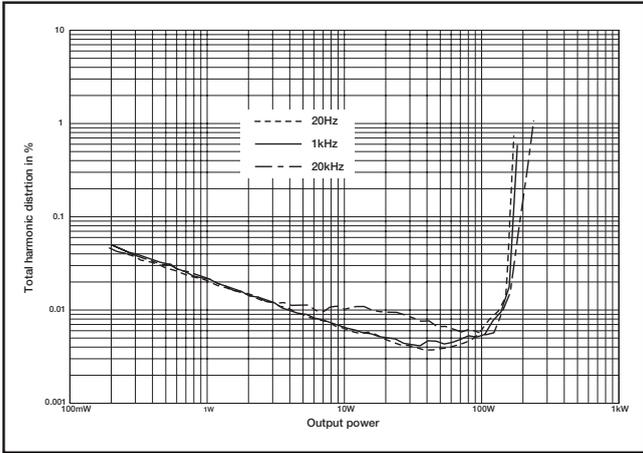
25.8kg

●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

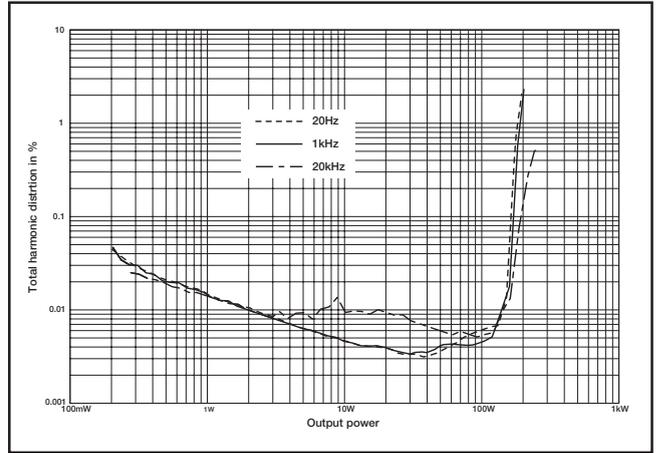
JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部：限度値—高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

\*本機の実験特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

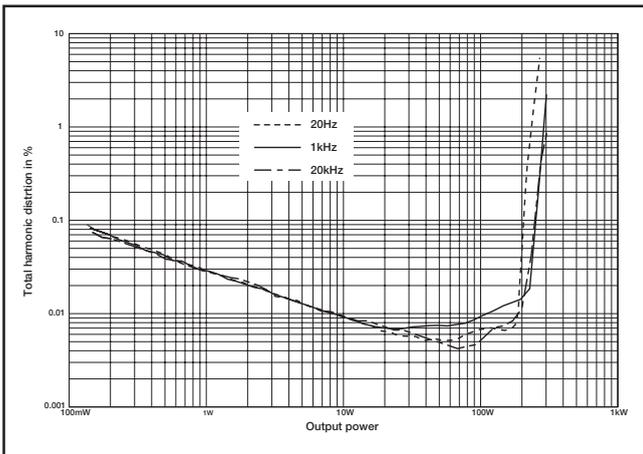
# 8. 特性グラフ



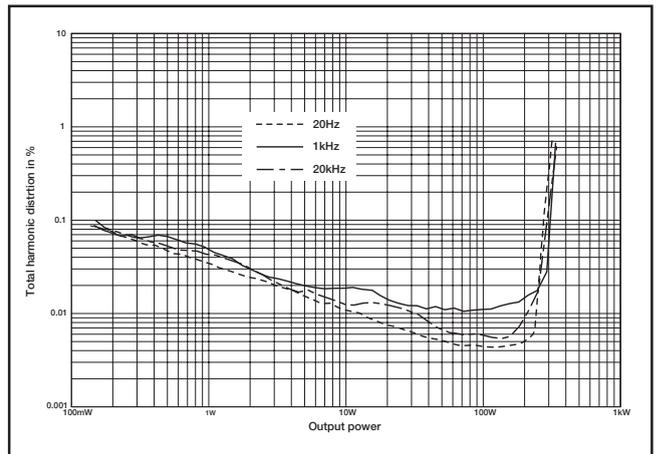
出力電力／全高調波ひずみ率特性  
(8Ω負荷、6チャンネル動作時)



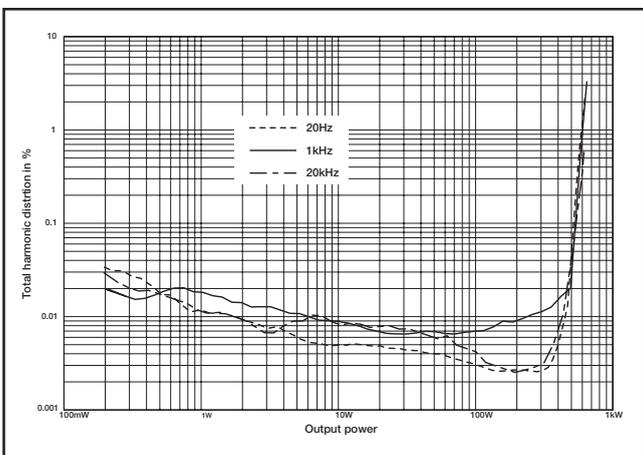
出力電力／全高調波ひずみ率特性  
(8Ω負荷、3チャンネル動作時)



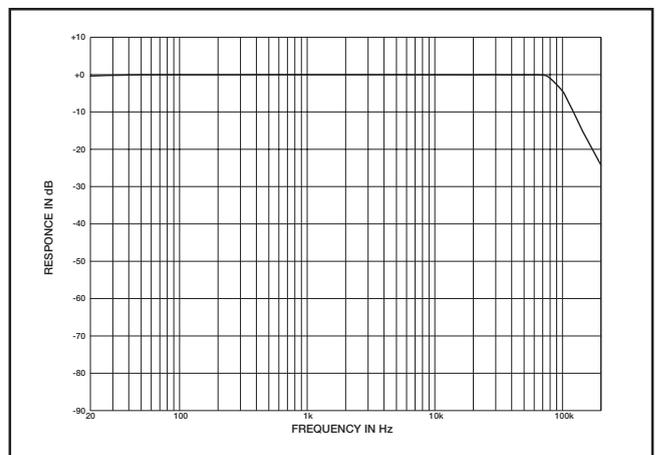
出力電力／全高調波ひずみ率特性  
(4Ω負荷、6チャンネル動作時)



出力電力／全高調波ひずみ率特性  
(4Ω負荷、2チャンネル動作時)

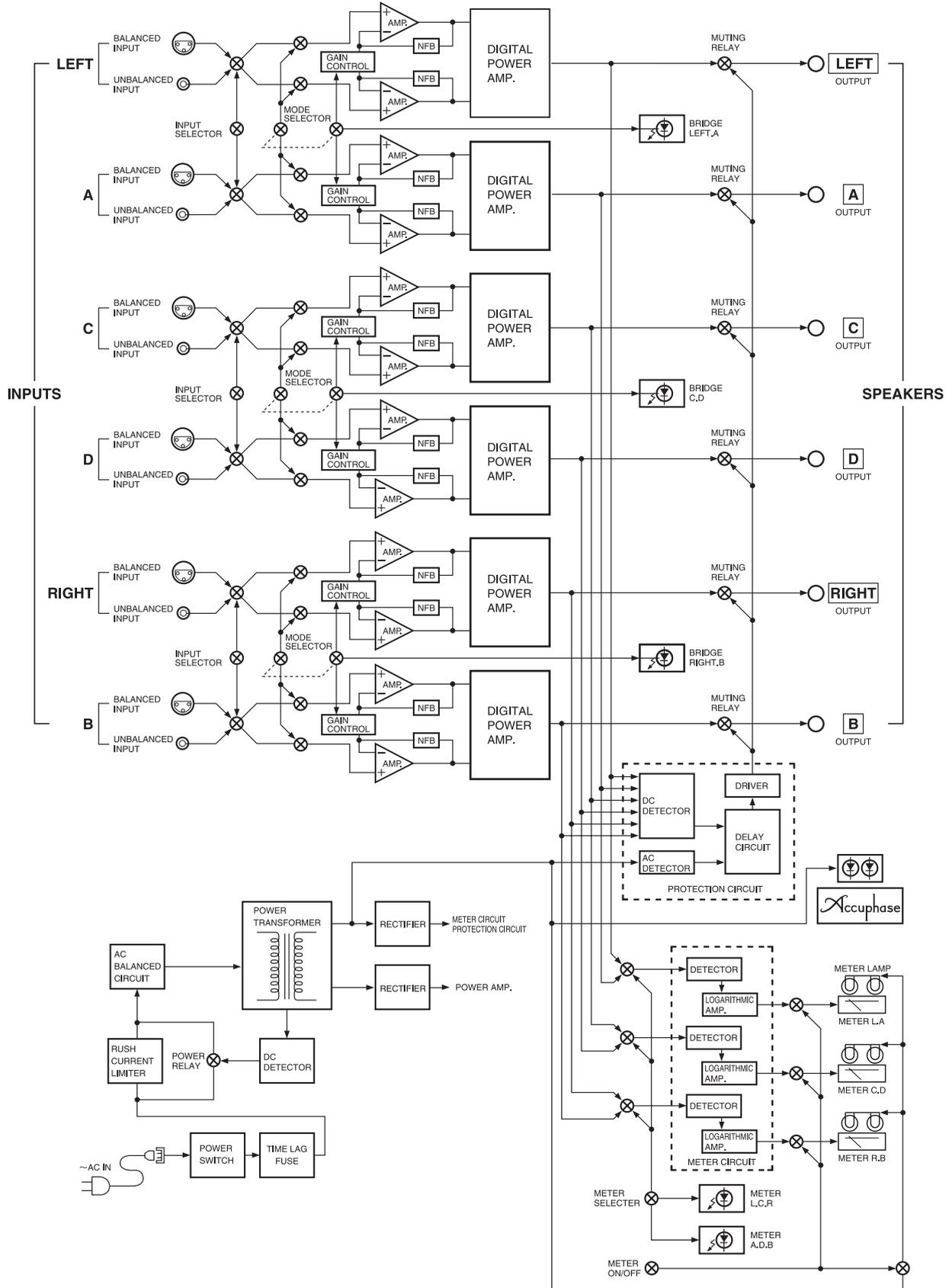


出力電力／全高調波ひずみ率特性  
(ブリッジ、8Ω負荷、2チャンネル動作時)



周波数特性

# 9. ブロック・ダイアグラム



## 10. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。  
これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。



**注意**：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

### 電源が入らない

- 電源コードが抜けていませんか。

### 音がでない

- プリアンプなどのソース側の電源は入っていますか。
- プリアンプやスピーカーなどと正しく接続されていますか。
- 入力端子切替スイッチの位置(BAL/UNBAL)を確認します。

### 特定チャンネルのスピーカーから音がでない

- 接続コード、スピーカーコードは正しく接続されていますか。
- AVアンプと入力が機器の「スピーカー設定」を確認します。
- 例えば左右チャンネルでどちらか片側の音がでない場合。
  - ① スピーカーコードを左右入れ替えます  
 ( 同じスピーカーから音がでない …… コードとスピーカーのチェック  
 左右逆の状態になる …… 本機やプリアンプ側に原因が考えられます。 )
  - ② 次に入力接続コードを左右入れ替えます。  
 ( 同じスピーカーから音がでない …… 本機に原因が考えられます。  
 左右逆の状態になる …… コードやプリアンプ側に原因が考えられます。 )

### メーターは振れるが音がでない

- スピーカーと本機のスピーカー端子が、正しく接続されていますか。

### 音は出るがメーターが振れない

- METER切替ボタンの、切り替えが正しい位置ですか。

### ブリッジ接続で音がでない

- モード切替スイッチは、BRIDGE側ですか。
- 入・出力端子は、正しく接続されていますか。(9ページ参照)

### 定位感がはっきりしない

- 本機とスピーカー端子の極性(+)(-)は正しく接続されていますか。
- 入力機器、パワーアンプ、スピーカーの [LEFT, RIGHT, A, B, C, D] 端子が正しく接続されていますか。
- ノーマル再生時に、モード切替スイッチがBRIDGE側になっていませんか。

# 11. アフターサービスについて

## 保証書

- 保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
- 「お客様カード」の「お客様情報欄」には付属の「目隠しシール」を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
- 「お客様カード」の登録をされていない場合、購入日は当社からの出荷日が適用されます。
- 保証書登録は付属の「お客様カード」で行われますが、購入が不適切な場合は登録できないことがあります。
- 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
- オプション・ボードやオプション・ユニットには「お客様カード」は付属していません。

## 保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

**⚠ 注意** 保証期間以降、長期に渡ってご使用の場合には、当社の定期的な点検をお薦めします。

## その他

- 改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- **保証は日本国内のみ適用されます。**  
Accuphase warranty is valid only in Japan.

## お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部  
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10  
TEL 045(901)2771(代表)  
FAX045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。  
<http://www.accuphase.co.jp/>

## 修理依頼の場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況:できるだけ詳しく

※梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC.

**アキュフェーズ株式会社**

横浜市青葉区新石川2-14-10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)